

個人的に好きなキャラ
がプリキュアの敵にな
ったらデビル団ス
トーリー

ラットZ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

(個人的に好きなキャラがプリキュア達の敵になったら)を、
プリキュアつながるばずるんのようなストーリーを書いてみました。

目次

説明	1
消えた新入生!?	
消えた新入生!?!編	1話
消えた新入生!?!編	2話
消えた新入生!?!編	3話
消えた新入生!?!編	4話
消えた新入生!?!編	5話
消えた新入生!?!編	エピソード
七夕のねがい みんなの笹飾り	
七夕のねがい みんなの笹飾り編	1
話	29

七夕のねがい みんなの笹飾り編	2
話	34
七夕のねがい みんなの笹飾り編	3
話	38
七夕のねがい みんなの笹飾り編	4
話	41

説明

デビル団

それは、ボス アークマンが作り出した組織である。

第一の部活、ゼロ口と、

連れてこられた個性ゆたかなキャラ達の大組織である。

スマホのアプリ、プリキュアつながるはずのんなのようなモチーフに日常なストーリーを作っていきたいと思います。キャラ紹介は、

(個人的に好きなキャラがプリキュア達の敵になったら) という作品に詳しく書いていきます。(まだ全部かけていません)

一応キャラ書きます。

ばいきんまん

ムスカ大佐

比企谷八幡

モジヨ・ジヨジヨ

パチユリー・ノーレッツジ

キヤンサー・ゾディアーツ／鬼島夏兎

ターニャ・フォン・デグレチャフ

あやしいクルーク

ベルフィゴール

戦艦レ級

ニヤース

ラット

ブロリー&mp;

パラガス

齊木空助

巡音ルカ

土方十四郎

とまあ、こんな感じですよ。今回のこの作品では、ミラクルライトなどはだしません。プリキュアつながるはずのんでは、悪事を止めるプリキュアvs悪事をするデビル団です。時には助けあうこともあります。

注意

→これは気にしないでください。

消えた新入生!?

消えた新入生!?!編 1話

登場プリキュア

(HUGつとプリキュア)

キュアエール

(キラキラプリキュアアラモード)

キュアホイップ

(ハピネスチャージプリキュア)

キュアプリンセス

(ドキドキ!プリキュア)

キュアハート

キュアロゼッタ

(スイートプリキュア)

キュアメモディ

キュアリズム

キュアビート

(ふたりはプリキュア splash☆star)

キュアブルーム

あらすじ

今日はどこの小学校も入学式。新しい一年生が入って来るが、デビル団の一味が学校を襲い、一年生達の姿がどこにもいない。なんと新入生達はデビル団が作り出した世界「ズットエンジ」の世界に閉じ込めていた。

そして、駆けつけたプリキュア達は何とかズットエンジの扉を見つけ飛び込むが、プリキュア達はバラバラに別れてしまう。

ズットエンジ

エール「勢いで飛び込んだけど、ここどこだろう？回りを見渡してもさくらばかり、おーい！誰かいませんか〜！」

しかし、返事はない。

エール「めちよつく!! どうしよう、誰もいない。あれ? あそこになにか落ちてる」

エールが落ちていたものを拾う。

エール「これって、ランドセル? 新入生の子かな? 落とし物なら早く届けてあげないと」

???「ちよつとそこのプリキュアちゃん、それを持って行かれたら困るんだよね」

エールの前に現れたのは、普通の男の高校生っぽく、黒い和風な感じの服を着て赤いズボンをはいている、そして扇子を片手に持つ。

エール「あなたは誰? どうしてこのランドセルをまさか! この世界を作ったのはあなたなの!」

鬼島「おつと、これは失敬。アタシはデビル団、元は鬼島夏兎という名前だが、今はキャンサー・ゾディアーツ、キャンサーと呼んでよ。さっそくだけど、新入生の一年生とかけて、お前さん達プリキュアととく、その心は!」

エール「え?」

鬼島「どちらもピカピカに輝いているから!」

エール「なるほど、でも、どういうこと?」

鬼島「まあ、アタシ達デビル団はプリキュア達の光のエネルギーが苦手なの、そして、

あの新入生やそのランドセルからは同じようなエネルギーを感じるの、だからどこかに捨てるの!」

エール「捨てるなんてひどい!それにさらわれた人達のことを知っているのなら、今すぐ教えて!」

鬼島「ふーん、渡すつもりがないなら、仕方ないね〜みんなくよろしく!」

すると、デビル団のしたっぱモンスター、デビル達が出てくる。

エールは戦う構えをする。

鬼島「ここはお前さん達に任せるよ。あのランドセルを頼んだよ。アタシはそれと似た同じ物を探して来るから」

鬼島はどこかに行ってしまう。

エール「ランドセル以外にもまだあるのね。でも、まずはこの人達を何とかしないと!」

そして、エールはデビル達と戦う。

消えた新入生!?編 2話

エール「結構歩いたのに、ちつとも、学校につかないく・あれ?」

エールは学校に向かっていて途中で、何かを見つける。

エール「あれって、黄色い帽子・あれも落とす物なのかな?」

エールが謎の黄色い帽子を拾おうと近づくが。

???「はいはい、残念だったね」ひよい。

エール「あつ!」

黄色い帽子を先にとったのは、鬼島（キャンサー）だった。

鬼島「ここにいてことはプリキュアちゃん、もうデビル達を倒したんだね!さすがプリキュアだけのことはあるね!でも、この帽子はアタシがもらっていくよ!それから、プリキュアちゃんの持っているそのランドセルも早くこっちに渡してもらおうよ!」

エール「キャンサー!その帽子も、このランドセルもあなたには渡さない!」

鬼島「あははははく・たった一人のプリキュアごときが、このアタシに勝てるよ、思っているの?笑わせるねく」

!!!

鬼島（キャンサー）が笑い終わる。

鬼島「でも、戦おうにも、帽子がアタシの方にあるかぎり、攻撃できないでしょ！」
エール「卑怯よ！」

鬼島「アタシに逆らったこと、後悔させてあげるよ。」

???「キラキラキラルン！ホイップ・デコレーション！」

鬼島「うわあ!?危ないなくって、あれ!?帽子は。」

突然の攻撃で、鬼島はギリギリ避けたが、持っていた帽子を落としてしまった。

???「今のうちに、帽子、いっただけー！」

鬼島「ああ!?帽子が!?一体誰だ！アタシのジヤマをするのは！」

ホイップ「キュアホイップ！できあがり！」

プリンセス「天空に舞う、青き風！キュアプリンセス！」

キュアエールを助けたのは、（キラキラプリキュアアラモード）のキュアホイップと、（ハピネスチャージプリキュア）のキュアプリンセスだった。

ホイップ「大丈夫だった？」

プリンセス「私達が来たからには、もう安心なんだから！一緒にさらわれた人達を助

けよう！」

エール「キュアホイップ！キュアプリンセス！助けに来てくれて、ありがとうございます！早くきます！」

ホイップ「私の町の人達をさらったのは、あなたでしょ？みんなは無事なの？早くみんなを返して！」

鬼島「何だい何だい！いきなり現れて、ヒーロー気取りかい？アタシはそういうのは大っ嫌いなんだよ。でも、さらった人がどうしてるかなら、教えてあげてもいいよ」

エール「え!?!」

そして、鬼島は謎の赤いスイッチを手取る。 !!

鬼島「ただし・カチッ！ ビカーン！ゴゴゴゴ」

鬼島がスイッチを押すと、一瞬かに座の星座マークが出てきて、その後に黒い光が鬼島を包み込む。

キャンサー「アタシを倒す事が出来ただけど
プリキュア達「!?!」

鬼島の姿はカニのような怪物姿となり、左手には大きなハサミが着いている。
プリンセス「ええ!? 変身した!？」
キャンサー「これがアタシの本当の姿さ! さあ、覚悟しな、プリキュア!」

消えた新入生!?編 3話

ドゴーン!!

キャンサー「ぐわああああ!!?やられた〜!!」

プリンセス「ど、どんなもんよっ!」

キャンサー「……て言うのは、嘘なわけ!!あの程度でアタシがやられるわけないじゃん!」

プリンセス「え〜!?まだピンピンしてる!」

キャンサー「でも、なかなかの強さだったよ!さすがプリキュア!しかも、二つのアイテムとプリキュア達のきずなの力も上がっているな」

エール「きずなの力」

ホイップ「ねえ、キャンサー、みんなはどこなの?居場所を教えて!」

キャンサー「うーん、まっ!君たちも頑張ったようだし、場所は教えられないけど、どうなっているのかなら教えてあげるよ。さらった人たちはね、みーんなアタシの力で、眠っているよ」

エール「眠っているって。」

キャンサー「まあ簡単に言ったら、さらってきた人たちの生体エネルギー、いわゆる魂を抜いて、アタシのこの自慢のハサミで、それを切っちゃったってわけ！」

プリキュア達「ええ!?!」

エール「それってまさか。」

キャンサー「大丈夫!少し眠ってもらってるだけだから、目覚めるには、あんた達がアタシを倒すか、アタシがおもいつきり笑わされるかの、どちらかしかないよ!」

プリンセス「笑わせる?」

エール「ということは。」

キャンサー「はい!ヒントはここまで!それじゃあ。」

ホイップ「あつ!待って。」

キャンサー「本当はドロンと消えたいところだけど、今のアタシはその移動する練習真つ最中なんですね。だから、マラソンランナーとかけて曲がった松と解く!」

ホイップ・プリンセス「え?」

エール「その心は!?!」

キャンサー「走ら(柱)にやならない!」

と言い、キャンサーは逃げた。

ホイッブ「ああ!?逃げちゃった。」

エール「走ると柱・あ!なるほど!」

プリンセス「つて、エール!のつてる場合じゃないでしょ!」

エール「ああ!?ごめん、つい・でも、さつきキャンサーが言っていた、きずなの力つていうのが気になつて・どうい・いみかな?」

ホイッブ「う・ん・きずなの力。」

ホイッブはしばらく考えと。

ホイッブ「キラつとひらめいた!ここからでは、きつと他にもなにかが必要なんだよ」

プリンセス「他つて言つても、この辺には何も落ちてないよ?あつちに学校があるみたいだから行つてみようか!」

エール「二人が来てくれて心強いな!この調子で、さらわれた人達を助けて、早くこの世界から抜け出そう!」

そして、ズットエンジの別の所。

スイートプリキュアがいる。

メロディ「周りは桜ばっかりだけど、さらわれた人達はどこにいるんだろう？」

リズム「こんなにきれいな場所なのに、誰もいなくてちよつと寂しい感じね」

メロディ「一緒に来てくれるはずのビートともはぐれちゃったし、これからどうしよう？」

リズム「ちよつと待って。あそこに何か落ちてるみたい」

リズムが何か見つけ、それを拾う。

メロディ「これ、お弁当とか入れる、手作りの袋みたい。まだ新しいし、さらわれた新入生のかな？」

リズム「それなら届けてあげなくちゃね！」

???「そうさせないよ♪その袋は私が探してたの♪だから、私にチョコ♪ダイ♪」

突然メロディ達の前に現れたのは、黒いパーカーみたいなのを着て、大きな、船のしっぽが生えている幼い女の子だった。メロディ達は危険を察知したのか、戦う態勢に入る。

メロディ「何いつてるの、渡せるわけないじゃない！それより、あなたは誰!？」

レ級「私はデビル団の戦艦レ級。渡してくれないなら、ドカーンつといくよ。それ
♪」

ドカーン！

リズム「何!?!すごい力!」

レ級「ここはデビル団の世界なの、だからいつもより調子がいいのよ♪さあ、お前
達も海のもくずだく!!」

メロディ「何それ!聞いてないよ!それにこの子見かけよりやばそうだよ!このま
まじゃ、私達あぶないかも!」

???「そうわせせない!」

すると、どこからか声が聞こえる。

レ級「ジャマをするのは誰?」

ブルーム「輝く金の花!キュアブルーム! メロディ、リズム、助けにきたよ!」
メロディ「ブルーム!」

ブルーム「詳しい話は後ですからま、ずは協力して何とか級をやっつけよう!」

レ級「私の名前は、レ級だよ!レ級!いきなり来て、失礼だから、もう許さない!お
前も海のもくずにしてやる!」

消えた新入生!?編 4話

レ級「ぐわあああ!?!」

ブルーム「どう、まいった?これに懲りたら、おとなしくさらわれた人達がどこにいるか教えなさい!」

レ級「ううう・キャンサーは袋を拾ってくるだけだって言ってたのにく・もうやくめた、撤退しよ!じゃあねく♪」ヒュン!

レ級はそのまま帰って行った。

メロディ「ちよつと待ちなさい。って、逃げられちゃった」

リズム「ありがとうブルーム。おかげで助かったわ!でも、どうしてここに?」

ブルーム「実は私達の町の入学式も、デビル団に教われたみたいなの。そして、教わられた人達を助ける時に、私はこっちの世界の扉を見つけてとつさに飛び込んだんだけど、イーグレットは間に合わなかったみたい。その後さらわれた人達を探してこの辺りを歩いてたら、あなた達の声が聞こえたから、助けに来たってわけ!」

メロディ「じゃあビートもきつと近くにいるね。無事だといいいけど」

リズム「あつちに学校が見えるからまずはあそこに目指しましょう。もしかしたら、

途中でビートに会えるかも」

そしてここは、ズットエンジのまた別の場所。

そこにはドキドキプリキュアのキュアハートとキュアロゼッタがいる。

ハート「不思議な扉から追いかけて来たけど連れ去られた人達は一体どこにいるのかな？」

ロゼッタ「せっかくの入学式ですから早く助けてさしあげないといけませんわね」

ドシーン!?

ハート「うわっ!なに!?!」

ロゼッタ「空から何かが落ちてきたみたいですけど」

??? 「いたたたた」

・
・

ロゼツタ「だ、大丈夫ですか。あら、もしかしてあなたはキュアビートさん？」
空から落ちてきたのはスイープリキュアのキュアビートだった。

ビート「キュアロゼツタ!?!それにキュアハートも!?!どうしてあなた達がここに??!つて
いうか、メロディとリズムは?！」

ハート「私達は、さらわれた人達を助けにこの世界に飛び込んだの。もしかしてあなたも?！」

ビート「私達の町でも入学式がおそわれて、新入生達が不思議な空間に連れ去られたの。みんなを助けようとメロディとリズムと一緒にここにつながる扉に飛び込んだんだけど二人とは、はぐれちゃったみたいね。」

ロゼツタ「そうだったんですか。では、キュアメロディさんとキュアリズムさんのお二人も一緒に探しましょう」

ロゼツタはビートの頭に何か着いているのに気づいた。

ロゼツタ「ところで、入学式のリボンを頭につけられているようですが、どうされたのですか?！」

ビート「あれ、いつの間に??!多分、ここに落ちた時に頭にくっついたんだと思うけど」

ハート「きつと、さらわれた新入生が落としていったものだよ。持っていて届けて

あげよう！」

???「ちよつと待ちな！そのリボンは俺様のさがしもんなんだよ！おらおらあ、とつとここつちに渡してもらうぜ！」

キュアハート達の前に現れたのは、高校生ぐらいの年で、黒色や赤色が着いている服を着ている。黒い猫耳帽子をかぶっている。

ハート「あなたがみんなをさらったの？せつかくの入学式を台無しにするなんて良くないよ。だから今すぐみんなを返して！」

ラット「ああん？てめえ、この俺様がデビル団の怪盗ラット様って知ってていつてんのか？それを渡さねえつもりなら、バーンといくぜ！ドーンといくぜ！そらよ！」

ラットは爆弾を投げ、着火させる。

ドーン！

ビート「なに？すごい力!？」

ハート「みんなを取り戻すまで私達は絶対諦めたりしない！キュアロゼッタ、キュアビート、力を貸して！」

ラット「おもしれえ、予告状だ！今からお前達の持つてるリボンをいただくぜ！」

ラットとの戦いが始まる。

消えた新入生!?編 5話

ラットを倒した。

ラット「のわあ!?ちくしょく!何で俺がこんなめに。それに、どうせあれはキャンサーのやつが、探して来いって言っただけだし、もうどうでもいいや、覚えてやがれ!プリキュア!」ヒュン!

ラットは帰って行った。

ビート「待ちなさい!みんなの居場所はどこなの!」

ロゼッタ「逃げられてしまいましたね。でもラットさんが逃げた方に学校が見えますし、まずはあそこに行ってみませんか?」

ハート「そうしよう。キュアメロディとキュアリズムももしかしたらあそこにいるかもしれないし」

そういい、キュアハート達も学校に向かう。

ズットエンジ、学校前。

エール「やつと着いたー！」

プリンセス「周りには誰もいないみたいだけど、さらわれたみんなはここにいるのかな？」

ホイップ「ここを出るための「何か」も探さないとね！」

学校の前には鬼島（キャンサー）がいる。

鬼島「あはははは。やっぱり来たね。プリキュアちゃん達！わざわざそのランドセルと帽子を持って来てくれて嬉しいよ！エールちゃん！」

エール「何いつてるの！ランドセルも帽子もあなたに絶対に渡さないし、さらわれたみんなも、必ず助ける！今度こそ覚悟しなさい！」

鬼島「ふふふ・ふくん、そういうことね。やっぱり面白いねえ、エールちゃんは。でもアンタ、嘘つきでしょ？」

エール「え？」

鬼島「アタシと同じにおいがするよ」

エール「そ、それは」

ホイップ「エールはもう嘘つきじゃない！エールはちゃんと約束は守っているよ！」
エール「ホイップ・」

鬼島「なるほど、でもアタシを倒してもさらった奴らを元の世界に返すにはまだ、絆の力が足りないね。絆の力を持った他のアイテムは、今アタシの仲間に取りに行かせてるから、お前さん達は諦めるしかないってこと！」

メロディ「そのアイテムって、この手作りの袋のこと？」

プリンセス「あ、メロディ！リズム！ブルーム！」

鬼島「何で、お前さん達が持つてるんだ!? さては、レ級のやつ失敗したなく！でも、ただ絆の力は少しだけ足りていないよ」

ロゼッタ「残念ながらあなたの悪だくみは大失敗ですわ！」

ハート「入学式のリボンならここにあるよー！」

リズム「キュアハート！ロゼッタ！それにビートまで！」

ビート「良かった！メロディとリズムも無事だったのね！」

鬼島「ぐぬぬ・どこまでも小癪な真似をく！こうなったら、アタシ自ら、お前さん達まとめて相手をしてあげるよ！」カチツ！ビカーン！ゴゴゴゴ

鬼島はスイッチを押しして、キャンサー・ゾディアーツとなった。

キャンサー「さあ、今度は本気でいかせてもらおうよ！」

ブルーム「やれるものならやってみなさい！みんな、いくよ！」

消えた新入生!? エピローグ

ドゴーン!!!

キャンサー「ぐあああアタシが負けるとかけて、黒い犬と解く。その心は。」
ピカーン!ゴゴゴゴ

キャンサーから鬼島に戻る。それと同時に、キャンサーが切り取った、さらわれた人達の魂が戻っていく。

鬼島「面（白くない）ガクツ！」

プリキュア達『やったく!!』

エール「さあ、絆の力を持ったアイテムも揃ったみたいだし、みんなを助けてあげよう！」

リズム「この4つのアイテムを同じ場所に集めればいいのかしら？」

プリンセス「ねえ、なんかアイテムが光ってない？」

ビート「4つのアイテムを近づけていくと、どんどん光が強くなるみたい。あつ!」
ピカーン!!

ハート「今、一瞬だけ入学式の思い出のような風景が見えなかった？」

ロゼッタ「皆さん、とても嬉しそうでしたね。そういえば、キャンサーさんが学校の入学式で楽しそうにしているのもありましたわ」

鬼島「確かに思い起こせばアタシは高校で落語研究会の部長になった、でも、あいつらのせいでおつといけねえ！アタシとしたことが、とにかく覚えてな！プリキュア！今度はちゃんと移動を」ヒュン！

メロディ「みんな、周りを見て！それぞれの世界が繋がって向こうの様子が見えてる！」

ブルーム「さらわれた人達も元の場所に戻ってるみたい。イーグレットも無事みたいで良かった！」

エール「良かった！私、一人で来ちゃったから早く戻らないと。みんなありがとう！またね！」

プリンセス「じゃあ、私も帰るね。バイバイ！」

ホイップ「私もみんなが心配するから帰るね。またね！」

ブルーム「みんなお疲れ様。また、会おうね！」

ハート「私達も帰るね。それじゃあ、また！」

ロゼッタ「失礼いたします。ごきげんよう！」

リズム「じゃあ、私達も帰りましょうか。ハミイも心配してるだろうし」

ビート「そうね。あ、そういえば、音吉さんにお買い物頼まれていなかったつけ
！」

メロディ「あー！そういえばそうだった！それじゃあ、急いで帰って買い物に行かないとね！」

さらわれた人達は何事もなかったように元の世界に戻りました。期待に胸をふくらませて入学式に向かう新入生とお母さん達。こうして、プリキュア達の活躍によって、無事に楽しい学校生活が始まるのでした。

おしまい。

七夕のねがい みんなの笹飾り

七夕のねがい みんなの笹飾り編 1話

登場プリキュア

(ふたりはプリキュア splash☆star)

キュアブルーム

キュアイーグレット

(フレッツシユプリキュア)

キュアパイン

(スマイルプリキュア)

キュアハッピー

(ドキドキ！プリキュア)

キュアエース

(ハピネスチャージプリキュア)

キュアフォーチュン

(Go!プリンセスプリキュア)

キュアトウインクル

(キラキラ☆プリキュアアラモード)

キュアパルフェ

(HUGっとプリキュア)

キュアエトワール

あらずじ

今日はまちにまつた、七夕の日。

空に輝く天の川を見ながら短冊に願い事を書く日です。

プリキュア達も短冊に願いを書いて七夕を楽しんでいました。

しかし、そんな様子を、ニヤースとあやしいクルーク、デビル団が見ていたので。

.....

ニヤース「ニヤ〜ハツハツハツ〜！あの短冊のついた笹飾りを奪ってみーんなをビ
リビリに破いてやるのニヤー！そうすればニヤーはデビル団でもっとえらくなれるの
ニヤー」

あやクル「おい、ニヤース。何か面白いことを考えているようだな？」

ニヤース「おみやーはあやクル？ニヤーはこれからみんなの願いをめちゃくちゃにし
て、ニヤーはもっとえらくあるのニヤー！」

あやクル「えらくなるのは私にはどうでもいいことだが、しかしなかなかいいアイデアだな。だがお前一人では勝ち目は薄いだろう？ 私にもつといい考えがある。少し耳を貸せ。」

ニヤースは耳をたててあやしいクルークの話聞いた。

ニヤース「ハニヤ〜!? それはいいアイデアだニヤ! これでプリキュアもろともニヤ〜ハツハ〜!!」

あやクル「プリキュアはこの私が倒し、あの力を手にいれてやる。行け! デビルども!」

デビル『デビデビ〜!!』

ニヤースとあやしいクルークはデビル団のしたつば、デビル達を使い町を襲い、町のあちこちから笹飾りを奪う。

ニヤース「ニヤハハ〜! この七夕の笹飾りはニヤー達デビル団が全部頂いていくのニヤ〜!」

ブルーム「待ちなさい! ニヤース! その笹飾りを返しなさい!」

ニヤースの前にキュアブルームとキュアイーグレットが現れる。

ニヤース「お断りだニヤ。おとなしく返す訳にないのニヤ! 返して欲しかったらここ

まで来るのニヤ！」

といい、ニヤースは笹飾りを持ちながら大きな扉に入って行く。

イーグレット「あつ！ニヤースが大きな扉に入っていったわ！どこかに繋がってるみたい。私達も追いかけてみよう！」

そういい、二人は大きな扉の中に入る。

すると。

ブルーム「ここって、天の川？綺麗だけど、何か寂しい感じ。」

イーグレット「ニヤトス達を作った世界なのかしら？」

ブルーム「見て、イーグレット。あそこに誰かいるみたい。行ってみよう。」

ブルームとイーグレットが見つけたのは、キュアパイン、キュアハッピー、キュアパルフエ、キュアエトワール、キュアフォーチュン、キュアトウインクル、キュアエースがいた。

ハッピー「あつ、ブルーム！イーグレット！どうしてここに？」

イーグレット「私達は、ニヤースに奪われた笹飾りを取り戻しにここまで来たの。」

パルフエ「私達もデビル達に奪われた笹飾りを追ってここに来たの。」

エトワール「それにしても、いろいろな場所で笹飾りを奪って、デビル団は何をするつもりなのかな？」

ニヤース「その調子ニヤ。予定通りにプリキユア達が集まって来たのニヤ！あとはあやクルの作戦通りに。」

パイン「あつ！みんな見て！川のほとりにニヤース達がいる！」

フオーチュン「見つけたわよ、ニヤース！おとなしく笹飾りを返しなさい！」

ニヤース「ニヤニヤ!?プリキユア！く、来るのが早すぎるのニヤ!?まだ準備が。」

エース「何か悪いことを考えているようですがあなたの好きにはさせませんわ！」

ハツピー「お願い、ニヤース。その笹飾りにはみんなの大切な願いがたくさんこめられているの！返してくれないかな？」

ニヤース「おとなしく返す訳ないのニヤ！こうにやったら。そうだニヤ！天の川に全部捨ててやるのニヤ！」

トウインクル「そんなこと、絶対にさせるわけないじゃない！みんな、ニヤースを止めよ！」

七夕のねがい みんなの笹飾り編 2話

パルフェ「さあ、ここまでよ！おとなしく笹飾りを返しなさい！」

ニヤース「ニヤ〜〜負けちやつたのニヤ〜にや〜んちやつて！今ニヤ、あやクル！」

ドドドドドドドドドドドド
!!!!!!

ニヤースの合図で、天の川の様子がおかしくなる。

パイン「な、何!?天の川の流れが急に激しくなつて」

ブルーム「な、流されるっわああああ!!」

プリキュアの大半が天の川に流されていく。

イーグレット「ブルーム!みんな!どうしよう、みんなが天の川に流されちやつた!」

ニヤース「ニヤハハ〜!うまくいったのニヤ!これでお前達は離ればなれだニヤ!な

んだかどつてもいい感じ〜!バイニヤラ〜!

ニヤースはさっさと逃げて行く。

パルフェ「あつ、ちよつと、もうつ、何て逃げ足が早いのかしら。」

! . . .

エース「皆さん、ひとまず落ち着きましょう。ここにいるのは私とイーグレット、パ
ルフエだけのようですわね。」

パルフエ「流されたのならこのまま川を下っていけば見つけられるかもしれないわ
ね。」

イーグレット「みんな無事でいるといいけど。」

エース「どこかへ消えてしまったニヤースから笹飾りを取り戻さないといけません
がひとまずは、みんなを探しに先へ進みましょう。」

あやクル「ふふふ。まずは作戦通り。このままプリキュア達をかたづけてやる！」

プリキュア達は仲間を探しに天の川を下って行く。
しばらくして。

パルフエ「結構な距離を歩いて来たと思うんだけど。」

イーグレット「あつ！あそこに何か落ちてる。何かしら。」

エース「これは、笹飾りから落ちた短冊ですわ。」

パルフエ「見て、ここにも短冊が落ちてる。「舞達と楽しく過ごせますように」

こ

れつてもしかして？」

イーグレット「これは、咲の書いた短冊。流されたみんなは無事かしら。」

エース「大丈夫ですわ。ブルームや他の皆さんもきつと無事にちがいありません。短冊が落ちていたということはここをニヤースが通ったということ。ニヤースを探して、他のみんなもこの先に向かってはいるはずですわ。」

ドーーーーーーン!!

どこかで攻撃をしている音がした。

パルフェ「な、何・あれつてもしかして！」

パルフェが見つけたのは、キュアフォーチュン、キュアパインがニヤースと戦っている姿だった。!?

フォーチュン「フォーチュン・スターバースト。ああもう！何てすばしっこいの！」
 パイン「お願い、ニヤース！その笹飾りを返して！」

ニヤース「それは出来ないのニヤ！にしても、プリキュアに見つかるとはく！あやくルはどこに行つたのニヤ?!」

イーグレット「フォーチュンとパインがニヤースと戦っているわ！私達も行きましょ

う！」

イーグレット達もニヤースを戦いに行く。

七夕のねがい みんなの笹飾り編 3話

ニヤース「ニヤ・ニヤ〜つ、強いニヤ、プリキュア！」

あやクル「ニヤース！何をしている、こつちだ！」

川の反対側にあやしいクルークが出てくる。

ニヤース「あやクル、どこに行つてたのニヤ！早くニヤーをそつちに連れてつてほしいのニヤ〜！」

あやクル「世話が焼けるな。ふっ！」

あやしいクルークの力でニヤースを川の反対側まで連れてくる。

パイン「ああつ、ニヤースが川の向こうに行つちやつたわ！」

ニヤース「ふう。あやクル、助かつたのニヤ。笹飾りはおみやーらには渡さないのニヤ！バイニヤラ！ニヤライバ！」

といいニヤースとあやしいクルークがその場を去る。

フオーチユン「あやクルもいただなんて。ニヤースだけじゃなかったのね。」

パルフェ「盗まれた笹飾りはまだ、ニヤースが持つてるし川をわたらないと。」

イーグレット「それに、流されてしまったブルーム達も心配だわ。」

パルフェ「でも、みんな一体どこにいるのかしら。ずっと川沿いを歩いて来たけど、パインとフォーチュン意外は誰もいなかったし。」

フォーチュン「待って。あやクルとニヤースが川の向こうがわに行つたつてことはもしかしたら流されたみんなは向こう側にいるんじゃないかしら。」

パイン「でも、流れが早すぎてこれじゃあわたれないわ。」

エース「そうですね。ひとまず川沿いを歩いて何かないか探してみましよう。もしかしたらヒントが見つかるかも知れませんわ。」

そして、もっと川沿いを歩いて行くプリキュア達だが。

イーグレット「川をわたれそうな場所、なかなか見つからないね。」

パルフェ「何かで橋をかけられたら早いんだけど。」

トウインクル「おーい！みんなー！！こっちこっちー！！」

川の反対側にキュアトウインクル、キュアエトワールがいた。

パイン「あつ！向こう岸にトウインクルとエトワールがいるわ！」

エトワール「みんな無事!? 私達は大丈夫だよ！」

エース「私達、そちらがわに行けなくて困っていますの。何かいいアイデアはないで

しようか？」

エトワール「うーん。そうだなあ。あつ、そうだ！私にいい考えがあるよ！」

あやクル「何かを企んでいるようだが、そう簡単にお前達の思い通りにはさせないぞ！」

エトワールとトウインクルの前にあやしいクルークが現れる。

エトワール「あやクル！こんなときに！」

トウインクル「あたし達、今忙しいの！ジヤマしないでくれる？」

あやクル「ふん、お前達の都合など私には関係ない。だが丁度良い、プリキュア、お前達のその力、この私が頂くぞ！ニヤース！」

イーグレット達の方の川沿いにニヤースが現れる。

ニヤース「任せるのニヤ！こっちのプリキュアはニヤーがやつつけてやるのニヤ！！」

エース「また来ましたわね、ニヤース！」

フォーチュン「トウインクル！エトワール！あやクルはお願いね！」

エトワール「任せて！そっちも気をつけて！」

パルフェ「私達はニヤースを何とかしましょう！」

七夕のねがい みんなの笹飾り編 4話

ニヤース「ニヤ〜。プリキュア達にまた負けたのニヤ〜」

あやクル「おの小癩なまねを！一旦引くぞ！行くぞ、ニヤース！」

ニヤース「ま、待つニヤ！ニヤーをおいて行かないでほしいのニヤ〜！覚えてるの

ニヤ！プリキュア！」

あやしいクルークとニヤースはその場を去る。

トウインクル「ふう、何とかなつたね。それで、エトワールの考えた良い方法って？」

エトワール「いくよ。メロディソード！スター・スラッシュ！」

キラーン！

トウインクル「なるほど！スター・スラッシュの上に乗って向こう岸にわたるのね

！これなら、川をわたれそう！」

エトワール「さあ！みんな！これに乗って川をわたって！」

スター・スラッシュの上に乗れ、反対側の川沿いまでこれた。

エース「これで無事に合流出来ましたわね。」

パルフェ「ずっと歩いても、何もなくてどうしようかと思ったけど本当に良かった

わ。」

イーグレット「エトワールのお陰ね。ありがとう、エトワール！」

エトワール「どういたしまして。困った時は、お互い様だよ！」

イーグレット「それで、まだ見つからないのはブルームとハッピーの二人ね。二人とも無事だと良いんだけど。」

トウインクル「きつと大丈夫だって！この調子で、他のみんなも探していこう！」

パルフェ「そしてニヤース達から笹飾りを、取り戻しましょう！」

エトワール「でも、ニヤースとあやクルはまだ何か企んでるんじゃないかな？」

フォーチュン「確かに、罠が仕掛けられている可能性もゼロじゃないわね。」

パイン「みんな一緒なら、きつと大丈夫！気を付けながら、先へ進みましょう。」

そしてしばらく先へ進んでいると。

フォーチュン「みんな、あそこ！ニヤースがいるわ！」

パイン「持つてる笹飾りがさつきより増えてる！またどこから盗んで来たのかしら

「」

エース「ニヤース！その笹飾りを返しなさい！」

ニヤース「おみやら、もうこんなところまで。笹飾りは渡さないのニヤ！これは全部にやーのみだれひつかきでチリチリにしてやるのニヤ！ニヤハハ！！」

パルフェ「ノン！それには、みんなの願いがこめられた大事な短冊がたくさん飾つてあるの！」

ニヤース「ニヤニヤ！それにやらなおさら返すわけにはいかないのニヤ！！それにおみやら、ニヤーが一人でいると思つたのかニヤ？」

フオーチユン「しまった！あやクルがどこかに。」

あやクル「フフフ。好きだからけど、プリキユア！イグニス！」

エトワール「きやあ！！」

あやしいクルークの呪文でエトワールを攻撃する。

トウインクル「エトワール！！大丈夫！！」

エース「不意討ちとは、卑怯ですわ！！」

あやクル「まさか、川をわたつて来るとは思わなかった。だが、私は何度でもお前達をバラバラにすることなどたやすいこと。はあ！」

ゴゴゴゴゴゴゴ
 . . . !!

天の川の流れが激しくなる。

パルフェ「オーララ。このままじゃ、また天の川が、洪水になるわ！」

トウインクル「もー！またあれなの!？」

エース「皆さん、流されないように手を繋ぎましょう！」

エトワール「うん。けど、すごい流れ！このままじゃ、また流されちゃう！」

ハッピー「そうはさせない!!プリキュア・ハッピーシャワー！」

キュアハッピーとキュアブルームが助けに来る。

パイン「ハッピー！助けに来てくれたのね！」

パルフェ「ハッピーシャワーで川の流れが変わったわ！助かったあ。」

あやクル「なぬ!?後もう少しでプリキュアをまたしてもバラバラに出来たものを。」

ブルーム「みんな！大丈夫!？」

イーグレット「ハッピー！ブルームも!!」

ハッピー「遅くなってごめんね！ちよっと、道に迷っちゃって。」

ブルーム「えっへへへ。」

. . . !!

イーグレット「ああと、とにかく！土人とも無事で良かった！」

ニヤース「ニヤニヤエヤ〜ツ!?プリキュアがまた揃ったのニヤ！」

あやクル「おのれ、私の完璧な作戦が」

ブルーム「さあ、みんなの願いがこめられた笹飾り、返してもらおうよ！」

イーグレット「覚悟しなさい！ニヤース、あやクル！」